

4月の政治・経済イベント

重要 01 日本はデフレ脱却に向けた歩みを進められるか

今年の春闘でも賃上げ加速が確認されていることで、長らく日本経済の重石となっているデフレからの脱却の機運が高まっています。賃金上昇がどの程度物価に波及するかについては、3月調査日銀短観で企業の物価見通しなどで見極めることになります。また、日銀会合同日に公表される展望レポートでは、物価見通しがどの程度上方修正されるのかに注目です。一方で、物価高により個人消費が弱含んでいることはデフレ脱却の足かせとなります。賃上げによる個人消費の回復が期待されます。

重要 02 ユーロ圏と米国で利上げ効果を見極める終盤戦へ

ユーロ圏と米国はともにインフレ率が減速してきており、利上げ効果を見極める終盤戦となっています。これまでの利上げによりユーロ圏は景気が減速し需要が弱含んでいるため、インフレ鈍化に繋がりが易い状況です。ECB（欧州中央銀行）が4月の会合で利下げを開始する可能性は低いものの、利下げ開始時期への言及がなされるかに注目です。一方、米国は景気が堅調でインフレ圧力が根強いことから、FRB（米連邦準備制度理事会）の利下げ時期を巡り、引き続き物価や雇用指標が注目されます。

重要 03 IMFの世界経済見通し、上方修正となるか

IMFの世界経済見通しが発表されます。欧米ではインフレが減速する中、米国は強い労働市場に支えられて消費が堅調であり、欧州は景気の最悪期を脱したとの見方もあります。また、日本はデフレ脱却への期待などのポジティブな要素があります。一方、中国の不動産問題や中東情勢の緊張、米中対立などの不透明な要素もあり、IMFがどのような見通しを示すのかに注目が集まります。

4月の主な政治・経済イベント

	国・地域	予定
1日(月)	日本 ●	3月調査日銀短観（全国企業短期経済観測調査）
3日(水)	ユーロ圏 	消費者物価指数（3月）
5日(金)	米国 	雇用統計（3月）
10日(水)	米国 	消費者物価指数（3月）
11日(木)	ユーロ圏 	金融政策発表
16日(火)	中国 	1-3月期GDP、鉱工業生産指数、小売売上高、固定資産投資（3月）
19日(金)	日本 ●	全国消費者物価指数（3月）
25日(木)	米国 	1-3月期GDP（速報値）
26日(金)	日本 ●	金融政策発表、経済・物価情勢の展望（展望レポート）公表
4月中	世界	IMF（国際通貨基金）世界経済見通し発表

上記は、すべて現地時間で作成しており、作成時点で利用可能な最新の情報を用いておりますが、発表日は変更される可能性があります。
 (出所) Bloombergデータ等より野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。